広報
さめがわ
昭和５５年
11月 号
No. 323
編集兼発行
鮫川村役場
塙町佐藤印刷所

冷害克服にも健康・体力
そして不屈の意志力



毎年体育の日に開かれる村の健康づくり秋季大会。今年は大冷害の年とあって開催をあやぶむ声もありましたが、参加チームは壮年ソフトボール20チーム。家庭バレーボールも20チームという盛況ぶり。

大会役員選手団を加えた堂々の入場行進は総数600余名で壮観を極めました。

冷害の試練を吹きとばし、豊かな明日を築くのは、村人の健康と体力、そして不屈の意志力です。鍛え、蓄わえ、更に力を協せて困難を克服しましょう。

- ⦿ 21日～23日　第33回鮫川村文化祭
- ⦿ 11月26日～12月２日　秋の全国火災予防運動
- ⦿ 26日　交通事故定期巡回相談　棚倉町中央公民館

今月の人口

（11月１日現在）

人口	5,667	（－４）
男	2,820	（＋２）
女	2,847	（－６）
世帯	1,150	（　０）

救荒修祭記に学ぶ施策と展開

村長　石田卯子八

村長の歩み (19)

今年の冷害の深刻さを見るにつけても思い出されるのは渡瀬村救荒修祭記にある天明の飢饉の惨状であります。

この碑文は水戸藩彰考館総裁翠軒立原学の作ですが、翠軒はこの地に来て現状を目のあたり見たわけではないようで、弟子の赤坂懿文その他から聞いて構想をまとめたものと思われます。

それにしても多数の餓死者を出した凄惨な大飢饉の姿を的確に表現した点で感心させられます。

私は一九七年前のこの時代に、政治や行政がどのような施策を行ったかに関心をもつものですが、「官為に賦税を除き粟を賜う」とありますから、先づ年貢の上納を免じたこと、食糧として粟を交付したことがわかります。

現在もこれは実施されなければならない施策で、わが村では先の臨時村議会の議を経て、村民税所得割と国民健康保険税の減免を行うことになりました。

飯米不足農家に対しては、政府米に余剰のある時代ですから、われわれとしてはこれを被災農家に貸付けることを要望したのですが食管法の建前もあり、実現はむずかしいようであります。

まだ決定していないことですが一旦債務負担行為で村が国県から政府米を一括買受け、被災農家は米穀通帳で必要数量を農協等から買受ける方式がとられるかと思います。この場合対価の延納は当然認めて貰わなければなりません。

更に現在は農家の生活にも農業経営にも多額の現金を必要とする時代であります。被災農家の所得対策が重要な役割を占めることになります。

村はこのため救農土木事業を巾広く実施する計画であります。直営による農道、林道の開設事業、請負による村道、林道等の整備事業などを村内各方部に計画しました。

また村有林の除伐枝打ちなど簡易な作業や、自分でできる暗渠排水工事などもありますので、積極的に就労されて事業が消化されることを期待しております。

その他県営事業や、国有林関係の事業も相当量くることになると思うので、就労機会は相当増加することになります。

次は再生産対策ですが、来年度用種籾の確保は農協が実務を担当し、村と県が補助金を支出して農家の負担を軽くすることにしております。

資金対策についても、災害資金、自作農維持資金の確保について、事務の進捗と努力が進められています。

今後の生産及び経営の技術的検討と、その対策は最も重要な課題となりますが、広く各方面の意見をきき、実績を検討し、慎重に方向づけを進める必要があると考えております。





消防の日と定めた10月３日に鮫川村消防団の秋季検閲が行われました。朝の市内行進から初まり、村民運動場で通常点検と規律訓練、閲団式が行われ、終って畜産センター前で勇壮な水勢競技が実施されました。この日も多数の来賓から規律厳正志気旺盛な団員の訓練ぶりが賞賛されました。



新型高性能の消防ポンプ自動車が村の消防力増強計画で購入され、10月29日第５分団（東石）に交付されました。



天明以来の大凶作にあった青生野部落では各地域の代表者十数名で役場を訪問し、石田村長を中心に具体的な対策を熱心に協議検討しました。

秋の全国火災予防運動

11月26日～12月2日

おめでた

九月

鍬木田　須藤　貴弘　父須藤光夫
青生野　山形　義美　父山形義広
下　木之内　瞳　父木之内満男

一〇月

大石草　芳賀　光義　父芳賀義美
宝木　水野　勝夫　父水野勝徳
小名沢　生田目宏好　父生田目広美

おくやみ

一〇月　年齢　世帯主

関口耕地　下重　チイ66歳下重金治
名下　西野　トメ82歳西野義久
関下　松本　キク69歳松本幸典
中沢　円谷トキ子55歳円谷政男

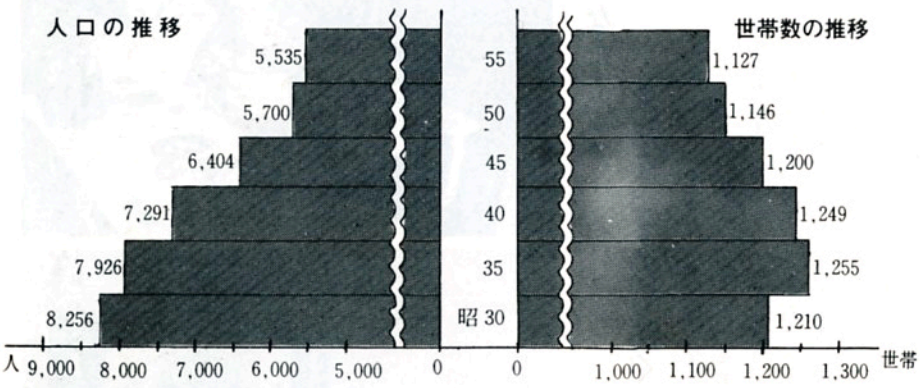
国勢調査の結果まとまる

人口・世帯とも減少とまる

一〇月一日現在で調査した昭和五五年国勢調査の概数結果をお知らせします。

今回の国勢調査に御尽力を頂いた国勢調査員の皆様大変御苦労様でした。

人口及び世帯数の推移（国勢調査）

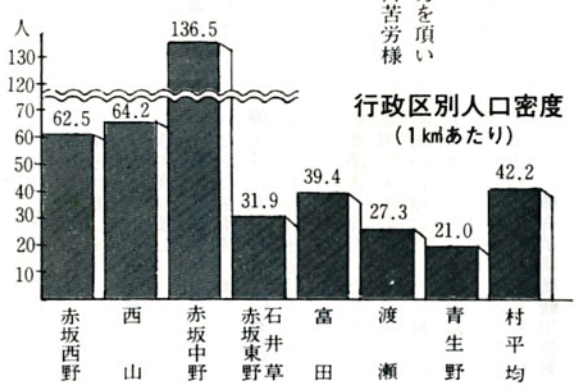


注　昭和55年国勢調査結果については、総理府統計局で公表する数字と異なる場合があります。

昭和55年　国勢調査行政区・世帯数・男女別人口集計表

行政区別	世帯数	総人口	男	女	一世帯当り人口	面積
	世帯	人	人	人	人	㎢
赤坂西野	166	927	470	457	5.6	14.84
西山	164	891	443	448	5.4	13.87
赤坂中野	220	949	465	484	4.3	6.95
赤坂東野 石井草	220	1,067	515	552	4.9	33.45
富田	110	488	234	254	4.4	12.39
渡瀬	152	733	353	380	4.8	26.87
青生野	95	480	254	226	5.1	22.83
計	1,127	5,535	2,734	2,801	4.9	131.20

行政区別人口密度（1㎢あたり）



人権擁護委員に

大楽勝男さん再任される

人権擁護委員大楽勝男さんが一〇月一日付で法務大臣より再任の委嘱状が発令されました。

任期は昭和五五年一〇月一日から昭和五八年九月三〇日までの三年間です。

無料 人権相談所

とき　12月2日

ところ　山村開発センター

次のような困りごと、もめごと、なやみごとをお持ちの方は気軽におでかけください。

相談は、人権擁護委員法務局職員が担当して個別にうかがい内容はすべて秘密にします。

- 名誉、信用、差別待遇、酷使、虐待、強制圧迫、ばい煙、騒音、悪臭による被害などの人権侵害問題
- 結婚、離婚、親子、扶養、相続などの家庭問題
- その他刑事、行政、税務、労働などに関する問題

□ 相談日　12月2日（火）
　午前10時～午後3時

□ 場　所　鮫川村山村開発センター
　1階農林経営研修室

□ 相談員　（電話）
　人権擁護委員　大楽　勝男　2201
　　鈴木　嘉上　2527
　法務局職員　2名

募集

広報について

ご意見をお寄せ下さい

「広報さめがわ」編集部では、村民の皆さんのご意見、要望をとり入れてよりよい紙面にしてゆくために原稿を募集しています。

どんなことでも結構ですからご意見をお寄せ下さい。お待ちしています。





村では初めての100歳の長寿を得られた渡瀬字中山の芳賀タツさんを祝う会が、山村開発センターでにぎやかに開かれました。

タツさんはこの日至ってお元気な姿で、にこやかに壇上の金屏風の前に着席され、多数の参会者から祝辞や記念品花束などを贈られ、終始笑顔で祝福をうけられました。

秋の全国火災予防運動
11月26日～12月2日

あなたです！ 火事を出すのも防ぐのも

火災シーズンを迎え、一人一人が火災予防に努めましょう。

どれもこれも、みんなあなたが知っていることばかりです。

◎ ストーブ

○ 人の動作のじゃまにならないところに、カーテンから離して置きましょう。洗たく物を干すのは危険です。

○ 火のついたまま移動しないこと。

○ 火が完全に消えてから給油しましょう。

○ 石油ストーブは「対震自動消火装置」のついたものを使いましょう。

◎ 火遊び

○ マッチは子供の目のつくところに置かないこと。

○ 子供だけで「たき火」をさせないこと。

○ 子供が火に興味を示したら火の正しい取扱い方と恐しさをよく教えましょう。

◎ 消火

○ 火が出た時、内しょで消そうとすると大事になります。どんな小さな出火でも、人に大声で知らせましょう。

○ カーテンに火が移ったら、ひきちぎりましょう。

○ 揚げもの料理には、鍋にあったふたを用意しましょう。

備えは“ぜいたく”にあらず、

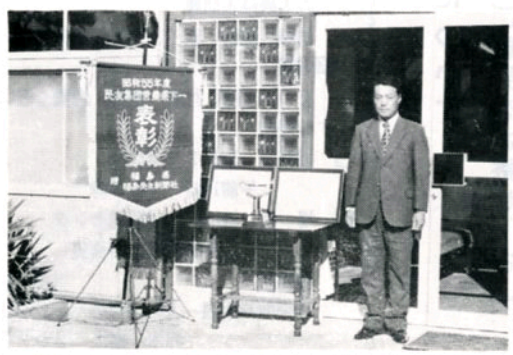
「家のまわりに水道栓を三カ所つくっていた。ぜいたくと思ったが、それが消火に役だった。それに、長さ四〇メートルの散水用のホースも大いに役にたった。被災地のまんなかで、とにかく家は焼け残った」

―酒田市大火―　五一年一〇月

棚倉消防署鮫川分署

青生野協業和牛組合
民友集団営農県下一に選ばれる

青生野協業和牛組合（代表＝土手内隆男）は、昭和三九年第一次農構で組合発足以来、放牧による和牛の繁殖育成を目的とした組織的な生産活動が見事な発展をとげ、このたび「生産集団の部」で民友集団営農県下一に選ばれ、県地域営農集団優秀賞と民友旗、福島県知事賞の賞状とカップを受賞し、福島県一の栄誉を獲得しました。



写真は受賞した賞状、民友旗、カップと組合代表者の土手内隆男さん。

休日の在宅当番医

（11月～12月）

月日（曜）	当番病院		
	棚倉町	塙町	矢祭町
11月16日（日）			木村
23日（日）	菅原		
24日（振替）	薄葉	中島	
30日（日）	大木	車田	
	藤巻	根本	
	棚倉町	塙町	矢祭町
12月7日（日）	診療所	厚生病院	
14日（日）	和田		慈泉堂
21日（日）	阿部	石川	
28日（日）	藤田		木村
29日（月）		中島	
30日（火）		車田	
31日（水）		根本	

たばこの投げ捨てはやめましょう

給食費援助の追加認定

一〇月分の給食費から

村では、小・中学校の児童生徒に対しセンター方式で完全給食を実施していますが、これは学校給食法に定める、

一、日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うこと。

二、学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと。

三、食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図ること。

四、食糧の生産、配分及び消費について、正しい理解に導くことの目標に添って実施しております。

給食費に要する経費のうち、人件費や設備費、運営費等は村が負担し、給食材料代を保護者に負担していただいておりますが、学校給食法の基準に従い、低所得等、家庭の状況によって保護者負担分を村が援助することにしています。そして基準は、

一、生活保護法で定める要保護者で、現に保護を受けていない者

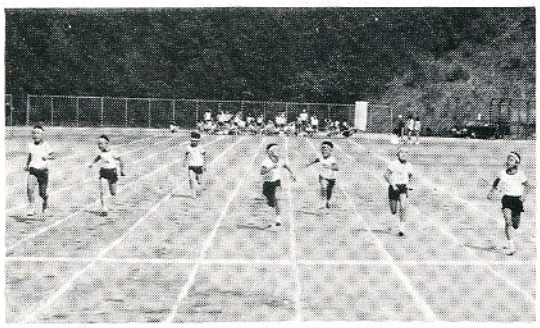
二、要保護者に準ずる程度に生活が容易でない者

となっています。

毎年度当初に民生委員の助言により、給食費援助世帯を認定し、給食費を全額援助していますが、本年は異常低温のため農作物等が大被害をうけ、稲作については飯米も穫れないという農家もあります。

教育委員会ではこうした現状に鑑み、激甚災害対策として、生活困窮世帯の追加認定を行い、一〇月分の給食費から援助することにしました。給食費を納めることが困難な方は一二月一〇日までに、民生委員か学校長又は学校教育課に電話でも結構ですから申し出て下さい。

教育委員会学校教育課
（電話三一五一番）





村内小学校６校の連合運動会は10月24日村民運動場で開かれました。この日秋空高く晴れて絶好の運動会日和、各校の栄誉をかけて力一杯がんばる子供さんたちの姿は頼もしい。

第33回　鮫川村文化祭

11月21日～23日

会場と催し物

◉ 21日	山村開発センター	幼・小・中学校児童生徒学習発表会
◉ 22日	山村開発センター	冷害克服農業振興シンポジウム　（表彰、体験発表、記念講演） 素人のど自慢大会
◉ 22日～23日	山村開発センター	青年会模擬店
◉ 23日	山村開発センター	お母さんお嫁さんに感謝する会（優良健康赤ちゃん表彰、小中学生作文発表、アトラクション） 夕べの集い
	公民館	短歌、俳句会
◉ 21日～23日	山村開発センター	村政広報展、老人作品展、一般作品展、色紙展、生花展、中井恒峯日本画展、さつき盆栽展、通進館
	公民館	幼児作品展
	文化センター	葉たばこ品評会、生活改善展、農業改良展、商工展、婦人会バザー
	農協事務所	交通安全展
	東白川農商高校鮫川分校	幼・小・中学校児童生徒作品展、高校生作品展、鮫高祭



冷害の今年でも土の中で育つ根菜類は稲ほどの被害はなく、渡瀬保育所の子供さんたちのさつまいもはこんなに大きく育ちました。

全国青少年健全育成強調月間

11月１日～30日

村内の交通事故　（10月31日現在）　発生10件　死亡０人　負傷者13人

青年駅伝競走
戸草分会が3連勝

第三回青年会駅伝競走は、一〇月二六日各大字から七チーム（富田分会は欠場）が参加して行われました。

午前九時、東白農商鮫川分校校庭で開会式を行い、午前一〇時分校前を石田村長の号砲でスタート。八区間（分校前～馬場～戸倉～水口～宝木～滑石～酒垂～猿子～寅卯平～真坂～宿ノ入コース）で力走が繰りひろげられ、戸草分会が二位に二分二六秒の差をつけて一時間八分四一秒のタイムで三連勝を果たしました。

二位は青生野分会一時間一一分七秒、三位は西野分会一時間一五分四秒でした。

区間賞は次のとおりです。

一区　本郷清子（戸草）四分三秒、二区　矢吹一男（中野）七分一〇秒、三区　松崎文男（戸草）七分五二秒、四区　石井政夫（西野）八分二三秒、五区　赤坂浩幸（渡瀬）一〇分五五秒、六区　芳賀文男（戸草）七分二七秒、七区　三瓶富士夫（戸草）一〇分二九秒、八区　三瓶稔（戸草）一一分四五秒





10月10日体育の日に恒例の健康づくり大会が村民運動場と鮫川中学校体育館を会場に開催され、熱戦の結果壮年ソフトボールの優勝は新宿チーム、準優勝は青生野チーム。家庭バレーボールの優勝は富田Aチーム、準優勝西山Bチームと決定しました。



若者も顔負けの元気な老人クラブスポーツ大会が、10月2日村民運動場で開催され、各単位老人クラブから多数の会員が出席して、たのしい演技をくりひろげました。



昭和55年秋の全国火災予防運動の標語は何でしょう？

昭和五五年秋の全国火災予防運動の統一標語を広く県民の皆さんに知っていただくため、福島県と福島県消防協会では懸賞を行います。

応募要領

一、応募の方法
官製ハガキに、昭和五五年秋の全国火災予防運動統一標語と郵便番号、住所、氏名、年齢、職業を書いてお送り下さい。

二、あて先
〒九六〇　福島市中町五の二一
福島県消防協会火災予防懸賞係

三、締切り　昭和五五年一二月五日（当日消印有効）

四、賞　品
家庭用消火器を正答者一〇〇名に進呈します。なお、正答者多数の場合は、抽選で当選者を決定します。

五、発　表
福島消防新聞に発表するとともに、昭和五五年一二月一五日から一二月三一日までの間、県内各消防本部、消防署、消防分署及び消防出張所等に、当選者名簿を掲示します。

11月～12月のゴミ収集日

収集コース	種別	11月	12月
江竜田～中野町～彦次郎 広畑～新宿（新宿橋まで）	可燃物	毎週月・木曜日	毎週月・木曜日
	不燃物	（隔週月曜日） 17日	（隔週月曜日） 1日・15日
新宿（新宿橋から）～道少田 ～大塩コース	可燃物	毎週火・木曜日	毎週火・木曜日
	不燃物	（隔週月曜日） （17日）	（隔週月曜日） 1日・15日
真坂～茅～酒垂～宝木 ～水口～官沢コース	不燃物	（隔週水曜日） 12日・26日	（隔週水曜日） 10日・24日
越虫～青生野～戸草～蒜ノ草 ～官代～遠ケ竜コース	不燃物	（隔週火曜日） 11日・25日	（隔週火曜日） 9日・23日
石井草～前田～鬼越～戸倉～菅田 ～沼野沢～岩野草～薄ケ久保コース	不燃物	毎月第1金曜日 7日	毎月第1金曜日 5日